

第6分科会 高等学校における不登校生徒支援の可能性

～支援の現場から見てきたこと～

大阪府教育センター
教育企画部 教育相談室

令和4年度に改訂された「生徒指導提要」では、不登校支援の目標は「児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるように支援を行うこと」と記されています。不登校は、多様な要因・背景により結果として不登校になっているということであり、個に応じた多様な社会的自立に向けて目標の幅を広げた支援を行うことが必要になります。本分科会では、大阪府高等学校教育支援センターと連携して生徒を支援した高等学校の取組みを紹介するとともに、不登校生徒支援の可能性について、大学教授に御講演いただきます。



報告

大阪府高等学校教育支援センターにおける不登校生徒支援

大阪府高等学校教育支援センターにおけるこれまでの不登校生徒支援の取組み等について報告します。

実践発表

大阪府高等学校教育支援センターと連携した生徒支援

大阪府教育センター附属高等学校
府立八尾北高等学校

学習支援の方法、生徒の自己有用感や自己効力感の高め方、学校復帰のための校内における条件整備等、高等学校における不登校生徒支援の取組みを発表します。

講演

不登校生徒支援の可能性

大阪信愛学院大学 教授 齊藤 誠一

子どもたちが主体的に取り組める体験活動や個別カウンセリング等、不登校の状態にある子どもへの実践的な取組みを通して得られた知見をもとに、不登校生徒支援の可能性について御講演いただきます。

参加者のアンケートより

- ・アセスメントを行ううえで、中学校と高等学校の情報交流がとても重要になると思いました。中学校教員として高等学校の現状が知れて良かったです。
- ・生徒や保護者の思いを受け止めながら、学校として何ができるのか、「一緒に考える」姿勢が大切だと感じました。
- ・不登校生徒にとって、不登校期間は休息や自分を見つめ直す積極的な機会という考え方はこれまで私にはなかった発想でよい気づきとなりました。
- ・管理職からの実践発表は、学校の組織としてのあり方や考え方を知る機会となりました。